



## KALS 大学院入試対策講座

専属チューターからのメッセージ

# チュートリアル通信

【2016年度】税法科目免除 VOL.8

河合塾 KALS の大学院入試対策講座では、チューター制度を導入しています。チューターは当校の合格者 OB/OG を中心に編成。授業での合格指導のみならず、受講生向け学習ガイダンス「サクセスチュートリアル」や個別カウンセリングなどを通じて、受講生からの進路・志望先に関する事、自主学習に関する事など、合格に向けてきめ細かくアドバイスをしています。以下は、税法科目免除・大木チューターからのメッセージです。今後の受験対策のご参考にしてください！

## 研究計画書の基礎②

### ● 研究計画書の構成

前回、判例評釈が研究計画書の参考になることをご紹介しました。では、具体的に、研究計画書の、典型的な構成を見てみましょう。

#### (1) はじめに（＝問題提起）

##### ① 研究動機

なぜ、このテーマを選んだのかを説明。「志望動機（なぜ大学院?）」「志望理由（なぜこの大学院?）」を書く場合は、熱く語る。（特に MBA、経営学研究科等）

##### ② 研究の目的成果（研究のゴールは何か）

「自分の目指す税理士業務に役立てるため。」「納税者の予測可能性を図る」等々。

#### (2) 研究（判決文、判例評釈などを使ってまとめる）

##### ① 事案の概要（簡潔に）

裁判の流れ（地裁，高裁，最高裁），論点の整理。

##### ② 考察検討

論点ごとに、意義や過去の判例をまとめる。また、賛成，反対，中立などの学説を整理する。

#### (3) まとめ

以上の研究結果を踏まえ、自分の考え、提案、結論を述べる。（解釈が間違っている。規定を作るあるいは改正をしたほうが良いなど。）

#### (4) 今後の研究計画

入学後どのように研究を加えようと考えているのかについて述べる。（現状で足りないものが何で、それをどのように補うのか?）

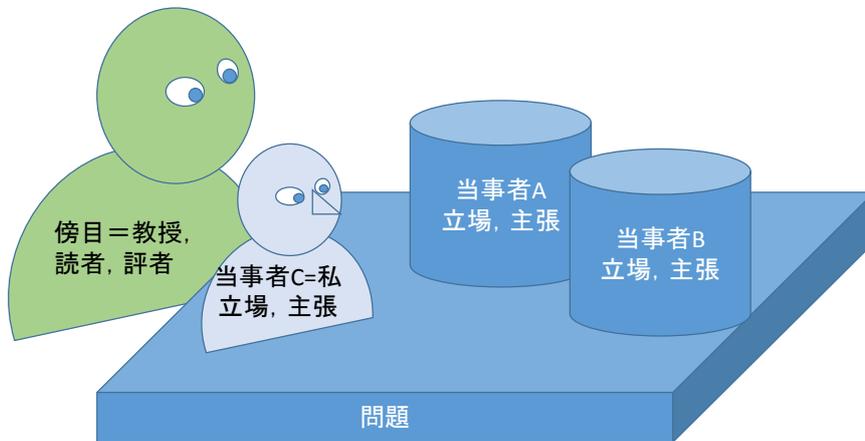
さまざまな、構成が考えられますが、このようなものが典型例だと思います。あくまでも、研究計画書で



# おかめはちもく 論文の客観性：傍目八目

最近、グーグルの子会社が開発した囲碁 AI の「アルファ碁 (AlphaGo)」が韓国のプロ棋士に勝ったというニュースが話題になりましたが、囲碁からでた「傍目八目 (おかめはちもく)」という言葉があります。囲碁の対局をしている者より、傍目 (はため) で見ている者のほうが、8 手先を見通せるという意味です。またこれは逆に、同じ人でも、当事者になると、盤面を見る力が劣るということでもあります。当事者になると何が変わってしまうのでしょうか。

囲碁に限らず、物事を客観的に見るためには、その局面、対局者それぞれの力や心理的な状況をそれぞれ別々に考察する力とそれらを複合することが必要になります。そこで、学校の学習では、問題にかかわる当事者たちを鳥瞰して考えるという図式で行われます。ところが、そこには、一つの盲点があります。その問題を考えている当事者である自分については検討していないということです。ところが、その問題を読み解くための力や経験や偏りがその自分自身にも存在します。しかし、通常の学習では、問題の解決方法を考える際、その問題を検討している自分を含まず、検討を行います。



したがって、ひとたび、囲碁の指し手のように、本当に自分が問題の中の当事者になってしまうと、客観的な全体像を考慮するなかに、自分のことをも客観視することを忘れがちになります。ところが、囲碁の傍観者や論文の読み手 (大学の教授など) は、研究の対象となっている裁判官や、学者の意見に対して客観的になると同時に筆

者である皆様の考えもそれらと同列に並べて考察対象とすることになります。傍目と当事者の客観力の差とは、客観的な検討対象に当事者である自分を入れることができるかどうかの違いということになるのではないのでしょうか。論点整理表のところでは、学者たちの説と同様に皆様の考えも書くようにお勧めしました。整理表ができたなら、自分の考えも第三者の目線で客観的に見てみましょう。

## おわりに

KALS のある新宿界隈では、ほとんど周りの人が外人という状況も珍しくありません。安倍政権も経済対策の目玉が見当たらず、インバウンド、特に外人観光客の増加に対する期待は日に日に高まるばかりです。外人相手の税理士が求められているのでは??? 早速、さび付いた英語の勉強を再開しようと思います。(^^;